

1 2月定例教育委員会 会議録

1、開催日時 令和元年12月24日（火）午後2時00分から午後3時20分

2、開催場所 市役所2階第一会議室

3、出席委員の氏名

教育長 上野 清

職務代理者 白戸 吉男

委員 三枝 泰子、小俣 和英、遠山 江理

委員以外で出席した職員

教育委員会教育次長、学校教育課長、学校教育課長補佐、生涯学習課長補佐

4、教育長開会宣言

5、会期の決定

6、今回会議録署名委員

白戸 吉男委員、遠山 江理委員が指名される。

7、前回の会議録の承認

職員が11月定例会会議録を朗読し承認される。

8、教育長報告

令和元年11月29日から令和元年12月20日までの教育長活動が報告された。

学校教育課長より、指定校変更1件、区域外就学2件、について資料に基づき説明を行い、申請事由が適正であることから、承認、承諾を行うとともに、他市教育委員会との協議を行った事務処理について報告がなされた。

9、議事

議第9号 令和元年度 都留市学力定着・向上検討委員会報告書について

[説明]学校教育課長

本年、4月18日に市内全小中学校の小学6年生、中学3年生を対象に実施された全国学力・学習状況調査の結果の報告となる。

その結果の分析については、「学力定着・向上検討委員会」にお願いをし、この度、報告書ができあがった。

この結果の公表につきましては、平成26年度に校長会及び教育会等との意見を聴く中で、検討委員会からの報告書に基づき、点数の公表はせずに、文言による公表を行ってきた。「県・国平均正答率と比較し、やや下回った、上回った」という表現となっている。

また、学習状況が成績にも関係していることから、併せて学習状況調査についても公表する予定である。

本年もこのような形で学校を通じて保護者に配っていただき、公表する予定ですのでご確認いただきたい。

白戸 吉男委員

報告書の内容について特徴的なところはあるのか？

学校教育課長補佐

小学6年生においては、平均正答率では、昨年よりやや低くなったものの、今年度は、「全国・県」と同じ水準にある。

中学3年生においては、平均正答率では、昨年度は国語、理科が「全国・県」と同じ水準で、数学は「全国・県」を下回っていたが、今年度は国語、数学ともに「全国・県」と同じ水準にある。

白戸 吉男委員

文言だけで見れば、昨年よりは大幅良くなってきたということか？

学校教育課長補佐

細かい部分でみると、数字的には「全国・県」と比べると劣っている部分もあるが、前後5パーセントの中に納まっているという中で、標準になっているという表現をしている。

小俣 和英委員

10年位の長いスパンで見た時に、右肩上がりなのか、波があるのか分かれば教えていただきたい？

学校教育課長

感触としては、教科の中で良くなったり、悪くなったりはあるが、一定の水準は保っているという印象はある。

白戸 吉男委員

あまり大きな変化はなく、毎年同じような傾向にあるのではないか。

遠山 江理委員

中学3年生で、去年は、理科があったが、今年は、国語、数学、英語が教科に関する調査となっているが？

学校教育課長補佐

その年によって、調査する教科が変わっており、今年度は国語、数学、英語となっている。

白戸 吉男委員

以前の報告書の中で、家庭学習の不足について取り上げられていたが、それなりの対策を継続していると思われるが状況について教えていただきたい？

学校教育課長補佐

保護者の皆さまにお伝えしたいこととして、授業で学習した内容をさらに定着させるためには、家庭での学習も大切になり、お子様の家庭での学習がさらに充実したものとなるようお願いをしている。

- ① 基礎的な知識・技能をしっかり身に着ける。
 - ② 知識・技能を活用し、自ら考え、判断し、表現する力をはぐくむ。
 - ③ 主体的に学習に取り組む態度を養う。
- 以上、学力の重要な3つの要素の育成に取り組んでいることを保護者に向けて伝えて
いる。

上野教育長

中学校生徒の特長の中で、計画的な家庭学習ができている生徒は半数以下であり、「
県」と比べて少ないと分析している。

全国的な傾向の中で、とりわけ中学生が家庭で何をしているのか分析をもっとして
いかなければ難しいところもある。塾通いも多いので、塾に行っていれば良いとい
うことではなく、家に帰ってくれば、スマホやパソコン、ゲーム等をしていたり、昨
今の傾向では、夜12時を過ぎてもSNSのやり取りなどが一部生徒にあるという話
を聞く。

白戸 吉男委員

塾に通っている子どもは、何パーセント位か？

学校教育課長

校長、教頭、教務の先生方と話をする中で、塾通いに関する話の話題はでていない。
タイミングをみて各学校どの程度か確認したいと思う。

白戸 吉男委員

塾が良い、悪いということではなくて、実態としてどの程度、塾に通っているのか
掴んでいると色々な施策において参考になるのではないかと。

三枝 泰子委員

平成26年頃に教育委員会で塾通いに関する調査を行った記憶がある。毎年行うの
は大変であるが定期的に傾向を探るためには継続していくことが必要であるのでは
ないか。気になるのは、質問紙調査の項目で「学校の授業時間以外に、普段どのくら
いの時間勉強をしますか」という問いで、全国に比べると都留市は低く、新聞も読ま

ないというような傾向がみられる。塾に行く行かないに限らず、日頃の学習への底上げが大事ではないかと感じた。

遠山 江理委員

保護者からみると、先生によって宿題の量が違ったように思うが、先生によって違うものか、学校によって決められているのか？

上野教育長

一般論的に言うと、学習は学校でやるもの、それが大前提であり、例えば小学校の低学年から中学校まで家庭学習という性質・中身が違い、小学校低学年から中学年までは学校でやったことを確認するための、いわゆる「基礎の定着」ということで復習が中心の学習をやっていた。先生方は、今日やったことをドリル的なものを家でやらせて、次の日、定着率がどのくらい高いか確認し、低ければフィードバックして前からやり直おしていた。中学校になると、子供の自主的な学習の意味合いの中で、自分でとりあえず色々調べたり、取り組んだことを学校に来て確認する学習、いわゆる「予習学習」が効果的であると言われており、小学校低学年のようにやったことを家に帰りやらせることはあまりない。傾向として、高学年になるに従って、家庭学習が少なくなっている。ところが昨今は、家庭でやるものがたくさんあり、子どもが多様になってきており、ほっとくと別のことをやってしまうので、時間を作らせるために宿題を出しているというところがある。私の場合、国語だったので、毎日新聞を読ませるなどさせていた。

白戸 吉男委員

例えば、夏休みの課題が負担になり過ぎないようにやっていたことはある。各教科の先生が自分の思いで課題を出すのが、子どもにとっては、すごい分量になってしまうことから、全体をみて課題を整理し、校内で打ち合わせるなど取り組んでいたことはある。

三枝 泰子委員

小学校勤務が長かったので、低学年は、「基礎の定着」ということで毎日宿題を出していた。低学年は、すぐ終わってしまうようなプリントだったり、中学年になると、

自分で調べてまとめるようなこと、高学年になると自学を入れさせるような取り組みをしていた。初めて中学校勤務になった時に、中学校というところは、受験に向けて3年間厳しい中、先生方もノートを丁寧に作らせて、自分のどこが足りないのか、そのためにはどうしたらいいのかというところを丹念にやっていた。そのため、入試に向かうその日まで0点を取らないよう朝まで指導をする姿を見て、中学校3年はやっぱり厳しいと感じた。小学校に戻って、評価に関して甘さを感じたが、階段を積み上げるための低学年の大事さ、中学年の大事さ、高学年の大事さ、そして中学校に向かってステップを上げる大事さを感じたので校内研等で伝えてみんなで頑張っていくしかないと感じた。確かに先生によって、宿題の出し方は、ばらつきがあり、その辺も学校としても積み上げ、家庭もそれに向かっていくことが強くなる秘訣ではないかと感じた。

上野教育長

教員によって、色々な意図があるので、一律でないところもあるが、学級の子どもの数によっても違って来る。本来、一斉指導という形の中で授業を行っているが、個別的に見たいところがあり、個別学習をさせるための資料が必要になってくる。それは、テストだけでなく家庭学習においても、結局、課題は一律に出しているが、どの程度できているかの判断をするため、たくさん出すこともあるが、悪意はなく、善意の中で個人を引っ張り上げたいというところもある。

遠山 江理委員

二者面談の中で、先生から「宿題を出し過ぎですか」と聞かれ、そうは感じないと答えたが、保護者の中では、宿題を出し過ぎるという話も聞く。先生によっても差があるということがわかった。

以上の発言あり。

上野教育長が意見を求め協議したところ、原案のとおり承認された。

【原案のとおり決定】

10、その他

[説明] 教育次長

- (1) 第66回都留市成人式について
- (2) その他

[説明] 学校教育課長

- (1) 都留市議会12月定例会における一般質問について
- (2) 新年互礼会の開催について
- (3) その他

【 了 知 】

11、教育長閉会宣言